

食は罪其身に止る名聞の罪は他に及ぶむかしある相者人に語りて我男天死相あり其月日必死すべしといへり然るに其期に及びて常に變ることなければ彼話を聞たるもの相の眞なきを嘲りしに一夜とみに死したりこゝに於て又實に相の疑ふべからざるをおどろきしが能たづぬれば己が説の違へるを恥て竊に其子を殺害したるとなり吾命にもかへて悲しと思ふべき子を殺しても其術の名聞を思へるを説給へる佛の教誡なりとかや

〔先哲叢談 後編 一〕江村專齋

或云江北海家所傳專齋眞蹟楷書二行實爲希世珍今其語附載于此曰名利兩不可好好名者比之好利者差勝好名則有所不爲好利則無所不爲也

〔先哲叢談 後編 四〕桂彩巖

彩巖以寬延二年己巳三月二十一日歿享年七十二歲葬於淺草新堀威德院其病在牀蓐遺言曰我無德學又無官績無敢修墓碣碑銘等而虛譽焉故其墓表特鏤顯性院殿彩巖義樹墓九字耳

買名譽
〔太平記 三十九〕大内介降參ノ事

爰ニ大内介ハ多年宮方ニテ周防長門兩國ヲ打チ平ゲテ無恐方居タリケルガ如何カ思ヒケン貞治三年ノ春ノ比ヨリ俄ニ心變ジテ此間押ヘテ領知スル處ノ兩國ヲ賜ハラバ御方ニ可參由ヲ將軍羽林ノ方ヘ申シタリケレバ兩國靜謐ノ基タルベシトテ聽テ所望ノ國ヲ被恩補依之今迄貳心無リケル厚東駿河守長門國ノ守護職ヲ被召放含恨ケレバ則長門國ヲ落チテ筑紫ヘ押シ渡リ菊池ト一ニ成テ却テ大内介ヲ攻メントス大内介遮テ三千餘騎ヲ率シテ豊後國ニ押寄セ菊池ト戰ヒケルガ第二度ノ軍ニ負テ菊池ガ勢ニ圍レケレバ降ヲ乞テ命ヲ助リ己ガ國ヘ歸テ後京都ヘゾ上リケル在京ノ間數萬貫ノ錢貨新渡ノ唐物等美ヲ盡シテ奉行頭人評定衆傾城田樂猿樂遁世者マデ是ヲ引與ヘケル間此人ニ増ル御用人有マジト末見エタル事モナキ先ニ